

## 心不全の原因に



からだを  
読み解く

九大病院別府病院の研究から

内科講師 樋口義洋

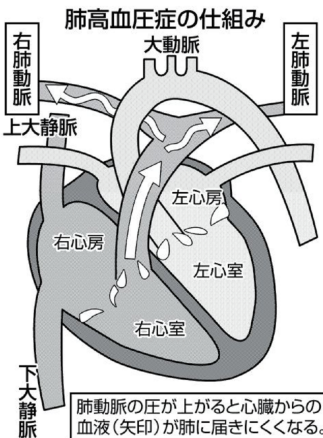
-9-

### 肺高血圧症の種類

1. 肺動脈性肺高血圧症
  - ・特発性(原因がはっきりしない)
  - ・遺伝性
  - ・薬剤または毒物誘発性
  - ・膠原病や先天性心疾患などに関連するもの
2. 左心疾患による肺高血圧症
3. 肺疾患・低酸素による肺高血圧症
4. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症
5. 原因不明の複合的要因による肺高血圧症

### 肺高血圧症の治療法

1. 血管拡張薬
  - ・プロスタグランジンの製剤(持続静脈注射・経口薬)
  - ・エンドセリン受容体拮抗薬(経口薬)
  - ・ホスホジエステラーゼ5阻害剤(経口薬)
2. バルーン肺動脈拡張術  
(慢性血栓塞栓性肺高血圧症のみに適応)
3. 肺移植手術



肺と心臓は肺動脈と肺静脈でつながっていて酸素を全身に運んでいます。全身の血液は大静脈から心臓に戻り、肺動脈から肺に送り込まれます。肺で酸素を受け取った血液は肺静脈から心臓に戻り、大動脈から全身に酸素を供給します。

## リウマチ膠原病医と連携

肺と心臓は肺動脈と肺静脈でつながっていて酸素を全身に運んでいます。全身の血液は大静脈から心臓に戻り、肺動脈から肺に送り込まれます。肺で酸素を受け取った血液は肺静脈から心臓に戻り、大動脈から全身に酸素を供給します。

原因はさまざまで、弁膜症や高血圧性心臓病などの左心疾患を伴うものも少なくありません。リウマチや自己免疫疾患など関節や臓器

肺高血圧症は進行すると治療が難しい病気です。これまで担当した患者の中には、原因が不明の特発性肺高血圧症という症例があり少し動くだけで息苦しくなるため、トイレに行けない寝たきりの状態になったり、入浴中に突然亡くなったたりしたケースもあります。

しかし、この数年に肺動脈を広げる血管拡張薬やバルーン肺動脈拡張術など新しい内服薬や治療方法が開発されて、効果的な治療ができるようになりました。

ただし、左心疾患に伴う肺高血圧症は左心疾患の治療が必要のため、肺血管拡張薬は基本的には使いません。

肺高血圧症は、肺動脈が炎症が発生する膠原病の狭くなるなどして血液の圧力(血圧)が上昇して右心室から肺に血液をうまく送り込めなくなる状態です。進行すると心臓の動きが悪くなり、心不全を発症します。肺高血圧症による心不全の症状はその他の原因の心不全と同様に①体を動かす②息が上がる③足がむくむ④気を失う⑤などがあります。

原因はさまざまで、弁膜症や高血圧性心臓病などの左心疾患を伴うものも少なくありません。リウマチや自己免疫疾患など関節や臓器

検査は胸部レントゲンや心電図、採血、心臓超音波、CT(コンピュータ断層撮影装置)などで行います。確定診断には、静脈から特殊な力カテーテルを入れて調べる右心カテーテル検査や肺動脈造影をします。

肺高血圧症は進行すると治療が難しい病気です。これまで担当した患者の中には、原因が不明の特発性肺高血圧症という症例があり少し動くだけで息苦しくなるため、トイレに行けない寝たきりの状態になったり、入浴中に突然亡くなったたりしたケースもあります。

しかし、この数年に肺動脈を広げる血管拡張薬やバルーン肺動脈拡張術など新しい内服薬や治療方法が開発されて、効果的な治療ができるようになりました。

ただし、左心疾患に伴う肺高血圧症は左心疾患の治療が必要のため、肺血管拡張薬は基本的には使いません。

九大病院別府病院では、リウマチ膠原病専門医と連携して、心臓超音波検査や採血を行い、肺高血圧症の早期発見、早期治療に努めています。重症でバルーン肺動脈拡張術や持続点滴治療などの特別な治療が必要な患者は九州大学病院(福岡市)で治療します。